

第**57**期

株主通信

2017年4月1日～2018年3月31日



P.1

株主の皆様へ



P.5

特集

70年の成長



P.11

トピックス

MEX金沢2018に
出展！

70th
SINCE 1948

TAKAMAZ

高松機械工業株式会社

証券コード：6155



代表取締役会長 高松喜与志

代表取締役社長 高松宗一郎

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第57期株主通信をお届けするに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

第57期を振り返りますと、日本経済は、企業業績や雇用情勢の改善が継続し、緩やかな回復基調で推移しました。工作機械業界では、内需・外需両面で旺盛な需要が継続した結果、2017年度の業界受注総額が前年同期に比べ38.1%増加した1兆7,803億円となり、過去最高を記録しました。

このような好環境の中で、当社グループの工作機械受注高が270億22百万円(前年同期比77.9%増)に達し、第44期に記録した最高受注高を13期ぶりに大きく更新しました。また、連結売上高も2期ぶりに過去最高を更新し、197億80百万円(同16.5%増)となりました。

第58期に目を向けましても、工作機械業界は変わらず好調が

続くと見込まれることから、当社グループ初となる売上高200億円超えを目指します。

そして当社は、2018年9月をもって創業70周年を迎えます。これもひとえに株主の皆様をはじめ、関係各位の長年にわたるご支援の賜物と心より感謝申し上げます。そのような節目の年である本年、4月1日付で業務執行体制を一新し、代表取締役会長に高松喜与志が、代表取締役社長に高松宗一郎が就任いたしました。刻一刻と変化する経営環境に対応するため、新たな経営体制のもと経営基盤の一層の充実と強化をはかり、当社グループのさらなる企業価値の向上と事業規模の発展を目指していく所存であります。

新経営体制のもと、株主の皆様のご期待に添えるような会社であるべく一層精進してまいりますので、今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

創業70周年を迎える中、さらなるお客様満足度の向上、収益力の強化、そして働き方改革の推進にチャレンジします。

Q 社長就任について、 今の想いをお聞かせください。

A 22年間の長きにわたって当社グループを率い、リーマンショックなどの危機も乗り越えて当社グループを大きく成長させてきた高松喜与志前社長から社長職を引き継ぐこととなりました。今後の自らの判断が会社や社員に与える影響の大きさを考えますと、身の引き締まる思いであります。

今後、社長として采配を振るっていくこととなりますが、第58期は当社グループが推進している現行の中期経営計画「中期計画2018」の最終年度になることから、目指す方向や戦略に大きな変更はありません。非常に好環境にあってフル生産している現在において、当社グループがなすべきことを支障なくこなしていくことが大事と考えています。

その一方で、会社の将来に目を向けますと、さらなる成長のチャンスが広がっていると見ています。TAKAMAZが持つ技術力や対応力は、主要な取引先である自動車業界が直面している変化に貢献できます。お客様が抱える課題解決に一体で取り組み、ともに変化していきます。

また、当社グループ内においては、社員の主体性や自主性を重視し、チャレンジを促進していくとともに、そのための風土づくりにも取り組んでいきたいと考えています。

当社グループは、これまで培ってきた技術力を強みとし、お客様に稼ぐ機械を提供し続けるとともに、新たな企業価値を提供できるよう日々研鑽を積み上げていきます。

Q 第57期(2018年3月期)の結果を 教えてください。

A 第57期では、工作機械や半導体製造装置の旺盛な需要が継続し、当社グループを取り巻く環境に明るさが増してきました。

このような状況の中、当社グループは過去最高の連結売上高となる197億80百万円(前年同期比16.5%増)を計上しました。利益面でも増益を達成し、営業利益15億99百万円(同70.4%増)、経常利益16億29百万円(同79.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益11億16百万円(同52.9%増)となりました。



①工作機械事業

工作機械事業の業績は、受注高270億22百万円(同77.9%増)、受注残高181億57百万円(同170.6%増)、売上高177億21百万円(同16.6%増)、営業利益15億32百万円(同59.9%増)で

あります。

この270億円を超える受注高は、これまでの最高額を100億円以上上回る非常に高い水準です。国内外の強い需要が反映したとともに、特に2018年1～3月において大手お客様から大量受注があったことによります。

売上につきましては、自動車業界向けを中心に、日本、中国およびタイにおいて大きく増加しました。

第57期での主な取り組みは、営業面では、国内においてMEX金沢2017(石川県)、ディーラ主催のプライベートショー、海外においてCIMT2017(中国)、EMO2017(ドイツ)、METALEX2017(タイ)等へ出展し、引合・受注の拡大に努めてきました。

生産面では、好調な受注状況に対応するため、立型CNC円筒研削盤の導入等の設備投資や、設計・製造部門への人員の投入を行うとともに、作業の効率化や生産体制の見直しによるコストの削減に取り組んできました。

②IT関連製造装置事業

IT関連製造装置事業の業績は、売上高13億円(同61.2%増)、営業利益1億13百万円(同2,242.7%増)であります。

第57期での主な取り組みは、営業面では、既存取引先や商社への積極的な訪問活動とともに、新規取引先開拓をはかってきました。生産面では、生産拡大のために工場を増築しました。

旺盛な需要を取り込み、適切な生産対応と利益管理の徹底に注力してきたことで、売上高・営業利益ともに過去最高となりました。

2018年3月期業績

売上高	19,780 百万円 (前年同期比16.5%増)
営業利益	1,599 百万円 (前年同期比70.4%増)
経常利益	1,629 百万円 (前年同期比79.8%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	1,116 百万円 (前年同期比52.9%増)

③自動車部品加工事業

自動車部品加工事業の業績は、売上高7億58百万円(同22.3%減)、営業損失45百万円(前年同期は23百万円の営業損失)であります。

第57期での主な取り組みは、主要取引先との連携を密にし、既存部品の増産や新規部品の取り込みをはかるとともに、リードタイム短縮による生産性向上に努めてきました。

しかしながら、主要取引先の生産計画や製品ライフサイクルによる一部部品の需要減少が業績に大きく影響し、売上高の減少とともに営業損失拡大となりました。



第58期(2019年3月期)の展望はどうお考えですか。



日本経済の先行きについては、内外経済の回復を背景に企業収益が高水準を維持する中、雇用・所得環境の改善が継続し、緩やかな景気拡大基調が期待される一方で、アメリカの経済政策による影響、金融市場や海外経済の動向がリスク要因として想定されます。

工作機械業界の先行きとして日本工作機械工業会は、各需要分野とも設備投資に前向きな姿勢は変わらず好調が続くと予測し、2018年暦年業界受注総額見込を1兆7,000億円としています。この見込金額は、10年ぶりに最高額を更新した2017年暦年実績を上回る非常に高い水準であり、要素部品の調達難が納期や調達コストに影響を及ぼすことが懸念されています。

2019年3月期業績予想

売上高	22,490 百万円 (前年同期比13.7%増)
営業利益	2,111 百万円 (前年同期比32.0%増)
経常利益	2,183 百万円 (前年同期比34.0%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	1,501 百万円 (前年同期比34.4%増)

このように、当社グループを取り巻く環境は、様々な懸念事項がありつつも、好環境が継続するものと見込んでいます。

Q 業績予想と達成に向けた課題は。

A 第58期の連結業績予想は、売上高224億90百万円、営業利益21億11百万円、経常利益21億83百万円、親会社株主に帰属する当期純利益15億1百万円と、前期に比べて売上高で約14%、利益で30%以上の改善を見込みます。売上高では2期連続の、営業利益および親会社株主に帰属する当期純利益では11期ぶりの過去最高更新を目指します。

セグメント別でもすべての事業で増収を見込み、工作機械事業売上高202億28百万円、IT関連製造装置事業売上高13億20百万円、自動車部品加工事業売上高9億42百万円を計画しています。

なお、営業利益率9.4%を見込んでいるため、「中期計画2018」の目標である「営業利益率10%以上」が未達となる見通しですが、策定した戦略の着実な実行をはかり、全社一丸となって初期目標の達成を目指していきます。

計画達成に向けて、当社グループにおいては生産対応が大きな課題となります。工作機械事業は、高い需要からフル生産を続けていますが、今後より多くの生産に対応できるように、増員、効率化、適切な生産管理などの生産拡大策をはかっていきます。

また、働き方改革の推進も重要と考え、生産効率の向上に資するような働きやすい職場環境づくりのために、有給休暇取得促進などの様々な取り組みを実施しています。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 当社では、将来の利益の成長および企業価値の向上に資する事業投資に充当するために必要な内部留保を行っていく一方で、安定的な配当水準を維持していくことで株主の皆様へ還元していきたいと考えています。

第57期の1株当たり配当は、年間20円(中間配当7円、期末配当13円)を実施させていただきました。

第58期の1株当たり配当は、過去最高の親会社株主に帰属する当期純利益を計上する計画であることを鑑み、前期から2円増配した年間22円(中間配当金8円、期末配当金14円)を予定しています。

また、当社が創業70周年を迎えるに当たり、株主の皆様の日頃からのご支援に感謝の意を表すために記念優待を実施します。2019年3月末に当社株式を1単元(100株)以上保有する株主様にオリジナルQUOカードを贈呈する予定です。株主の皆様におかれましては、ぜひ今後も継続保有をお願いしたいと存じます。

当社グループが非常に良い環境にある中、また、創業70周年、中期計画最終年度という節目でもある中で社長に就任いたしました。これからも株主の皆様のご期待に添えますよう、当社グループの益々の発展を目指し、社員とともに全力で経営にあたってまいりますので、変わらぬご支援とご指導を心よりお願い申し上げます。



【高松宗一郎プロフィール】

1978年生まれ。2000年4月に当社入社後、自動車部品生産部長、取締役総務人事部長、取締役海外営業部長など主要部門を幅広く経験。2014年10月には副社長に就任し、社長を補佐しながら会社全体をマネジメントしてきた。2018年4月社長に就任し、人の声を大切にする社長になりたいという思いを持つ。普段の楽しみは自身の二人の子と遊ぶこと。

特集●70年の成長

当社は今年、創業70周年を迎えます。
「お客様にとって常に“稼ぐ機械”であり続けたい」
との一途な思いは、世代や国境を越えて
TAKAMAZの経営基盤となり、社員から
社員へと引き継がれています。

1948.9

- 高松喜一が個人創業し、
機械部品の製造を始める



1960.1

- 面取旋盤「T600」
の製造により工作
機械の分野に進出



1961.7

- 高松機械工業株式会社
を設立し、高松喜一が
社長に就任(初代)

1968.5

- 石川県金沢市松村に新工場を建設移転



1973.4

- 高松邦が社長に就任(2代目)

1985.11

- 石川県白山市旭丘(現在地)に
新工場を建設移転



1988.5

- 川江豊吉が社長に就任(3代目)

1991.9

- コレットチャック等の製造を行う
第2工場を新設



1996.2

- アメリカに販売子会社タカマツマシ
ナリーU.S.A.を設立

1996.6

- 高松喜与志が社長に就任
(4代目)

2001.2

- 株式会社店頭公開(現JASDAQ)

2001.3

- 自動車部品等の加工を行う
第3工場を新設



●1948年創業

●1960年代

●1970年代

●1980年代

●1990年代

●2000年代

2003.8

- タイに販売子会社タカマツマシナリータイランドを設立

2003.11

- IT関連製造装置の製造を行う開発センターを新設



2008.10

- 板金加工事業をM&Aにより取得

2009.3

- ドイツに販売子会社タカマツマシナリーヨーロッパを設立

2010.11

- 中国に販売子会社喜志高松機械を設立

●2010年代

2004.12

- 開発センターを増築し、生産エリアを拡大
- 中国に工作機械の製造を行う合弁会社杭州友嘉高松機械を設立

2005.1

- 第3工場を増築し、加工ラインを増設

2006.1

- 本社工場を増築し、生産エリアを拡大

2006.4

- 東京証券取引所市場第二部上場



2013.3

- 2度目となる本社工場の増築を行い、大型の立体自動倉庫を設置

2013.4

- インドネシアに販売子会社タカマツインドネシアを設立



2013.6

- 中国の合弁会社杭州友嘉高松機械の新工場を建設移転



70th

SINCE 1948

2014.3

- ぎんなん自動分割機「銀次郎」の初出荷により食品加工機械分野に進出

2015.2

- タイに自動車部品の加工を行う合弁会社TPマシンパーツを設立

2017.1

- メキシコに販売子会社タカマツマシナリーメキシコ、ベトナムに販売子会社タカマツマシナリーベトナムを設立



2018.3

- 2度目となる開発センターの増築を行い、生産スペースを再拡大

2018.4

- 高松宗一郎が社長に就任(5代目)

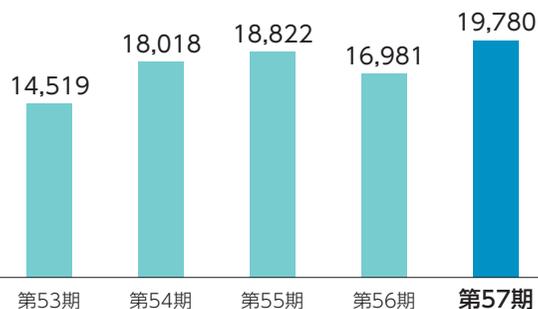
連結業績ハイライト

科 目		第53期 (2013年度)	第54期 (2014年度)	第55期 (2015年度)	第56期 (2016年度)	第57期 (2017年度)
売上高	(百万円)	14,519	18,018	18,822	16,981	19,780
営業利益	(百万円)	737	1,354	1,741	938	1,599
経常利益	(百万円)	905	1,459	1,796	906	1,629
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	436	936	1,225	730	1,116
純資産額	(百万円)	10,241	11,303	12,008	12,355	13,276
総資産額	(百万円)	17,845	19,574	20,323	19,961	21,987
自己資本利益率(ROE)	(%)	4.4	8.7	10.5	6.0	8.7
1株当たり当期純利益	(円)	40.08	85.37	111.51	66.43	102.59
1株当たり純資産額	(円)	937.99	1,026.89	1,090.63	1,122.47	1,222.95

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

売上高

(単位：百万円)



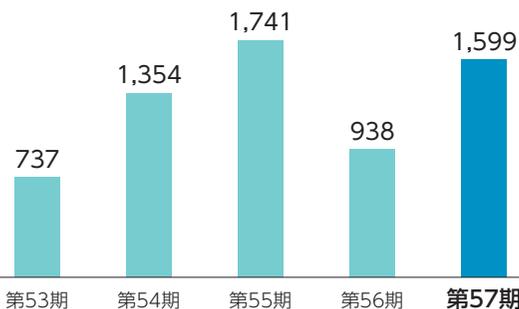
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位：百万円)



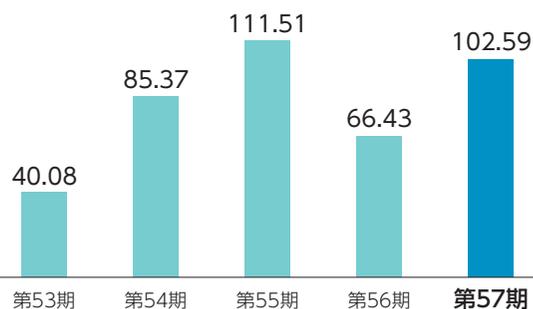
営業利益

(単位：百万円)

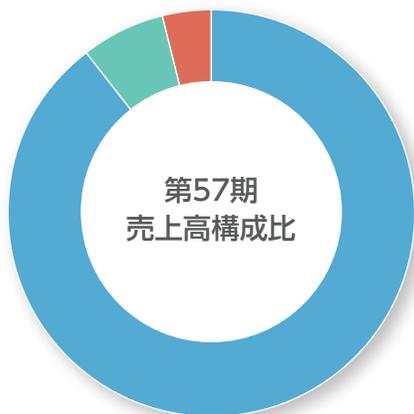


1株当たり当期純利益

(単位：円)



セグメント別の概況



- 工作機械事業
- IT関連製造装置事業
- 自動車部品加工事業

工作機械事業

営業面では、国内外の展示会へ出展し、当社の得意とする自動化技術の紹介や新製品の拡販活動を行いました。また、海外の各連結子会社においてプライベートショーを実施し、各地のお客様との関係強化に努めました。

受注高270億22百万円の内訳は、内需が190億57百万円(前年同期比76.4%増)、

売上高 **17,721** 百万円
構成比 **89.6%**

外需が79億64百万円(同81.4%増)でした。外需では特に中国向けが大きく伸びています。

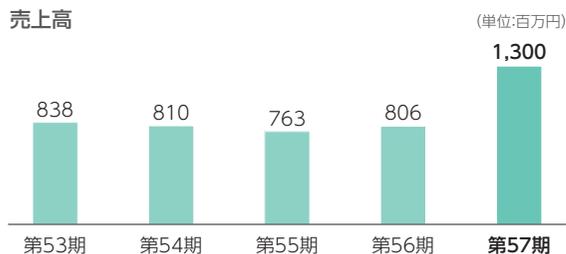
地域別の売上高は、内需が好調を維持し、119億67百万円(同18.4%増)、外需はアジア向けが好調に推移し、57億53百万円(同13.1%増)でした。外需比率は32.5%(前年同期は33.5%)となりました。



IT関連製造装置事業

売上高 **1,300** 百万円
構成比 **6.6%**

一年を通じて半導体関連が好調だったことに加え、営業活動の成果による新規獲得案件の受注も増加しました。特に下半期の業績が非常に高い水準で推移し、売上高が過去最高となりました。

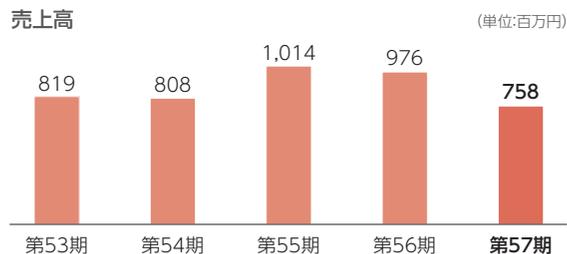


自動車部品加工事業

売上高 **758** 百万円
構成比 **3.8%**

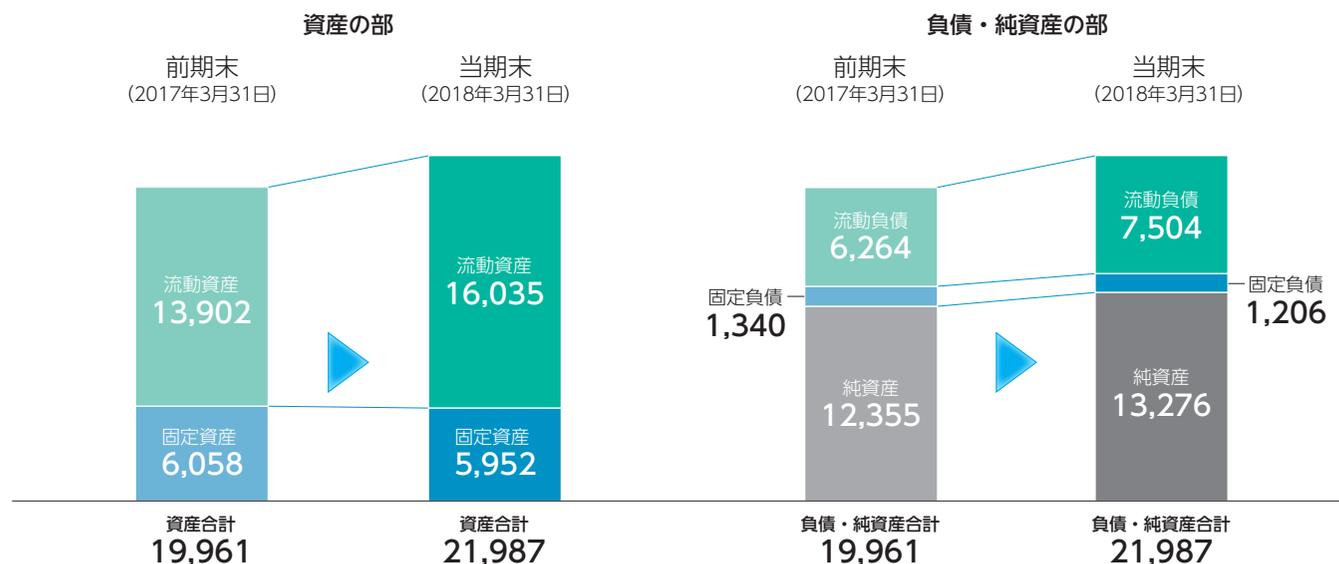
主要取引先における生産計画の下振れが業績に対して大きく影響し、売上高が低調に推移しました。

一方タイの連結子会社は、新たな設備投資のための増資を行うなど、規模を拡大してきました。



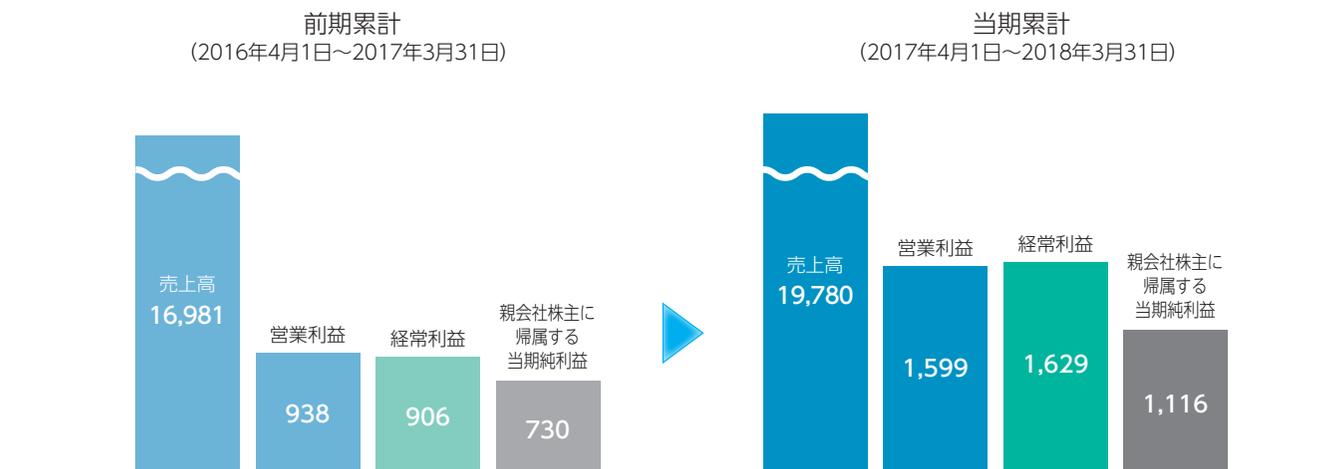
連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



連結損益計算書の概要

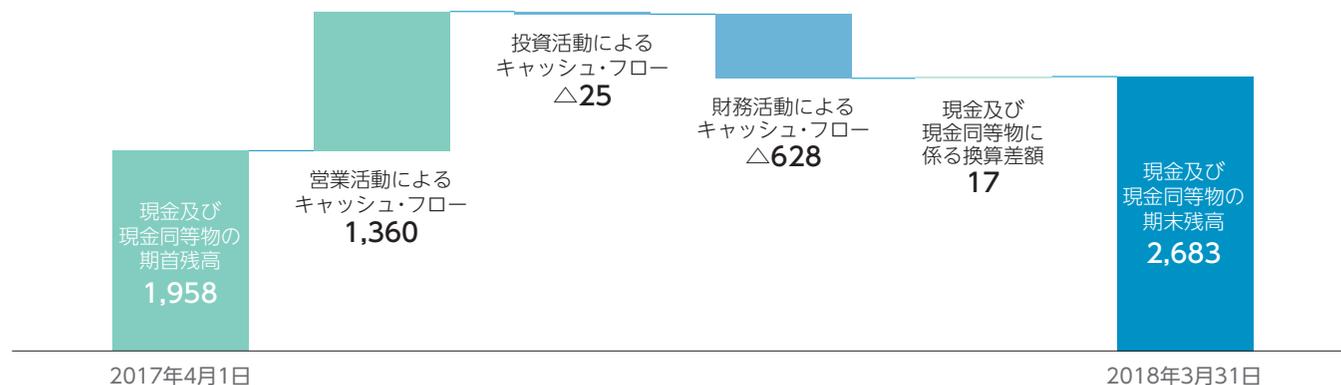
(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)

当期累計
(2017年4月1日～2018年3月31日)



財務のポイント

■ 資産

流動資産の主な変動要因として、電子記録債権が8億57百万円、現金及び預金が6億22百万円増加しました。

固定資産の主な変動要因として、機械装置及び運搬具が1億48百万円減少しました。

■ 負債

流動負債の主な変動要因として、電子記録債務が6億77百万円、流動負債のその他(未払金等)が4億52百万円増加しました。

固定負債の主な変動要因として、長期借入金が1億23百万円減少しました。

■ 純資産

主な変動要因として、自己株式が1億52百万円増加(純資産は減少)しましたが、利益剰余金が8億97百万円増加しました。

なお、自己資本比率は60.3%であります。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

13億60百万円の資金流入(前年同期は4億76百万円の資金流入)でした。

主な流入要因は、税金等調整前当期純利益の計上や仕入債務の増加等であり、主な流出要因は、法人税等の支払や売上債権の増加等であります。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

25百万円の資金流出(前年同期は4億27百万円の資金流出)でした。

主な流出要因は、有形固定資産の取得による支出等であります。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

6億28百万円の資金流出(前年同期は4億78百万円の資金流出)でした。

主な流出要因は、長期借入金の返済による支出、配当金の支払、自己株式の取得による支出等であります。

MEX金沢2018

5月17日～19日の3日間、機械工業見本市「MEX金沢2018」が行われました。

MEX金沢は毎年開催されており、グローバルに活躍する企業の最新技術が一挙に集結する日本海側最大級の展示会です。今年は過去最多となる223社もの出展があり、大盛況となりました。

当社は新製品を含めた製品4機種を展示し、営業員がデモ加工を交えながら当社の技術力をアピールしました。

近年人手不足が深刻化する中で、生産性アップを実現できる当社自慢の製品はご来場の皆様の大きな注目を集め、多くの受注や引合をいただくことができました。



●XWT-10

加工できるワークサイズを拡大しつつも、従来からの特徴である安定した加工精度はそのまま維持しています。また、従来機に比べさらに幅広い加工に対応できるようになりました。

●XYT-51

素材から完品まで一貫加工でき、工程集約のニーズに応えるスペシャルマシンです。お客様の生産形態に合わせた加工を実現できるよう、種類豊富な工具を取り付け可能にしました。



石川デザイン賞受賞

当社は、2017年度「石川デザイン賞」を受賞しました。

石川デザイン賞は、デザインの向上・普及に大きく貢献した石川県内の個人および企業・団体を表彰する制度です。

「工作機械としての機能性、安全性を追求していく延長線上に、ふざわしいデザインがある」というポリシーのもとで行ってきた製品開発が評価され、受賞に至りました。その中でも、当社の製品「SKV-8」は機能性とデザイン性を両立させ、「第47回機械工業デザイン賞」（日刊工業新聞社主催）で審査員会特別賞に輝いています。



卓越した技能者（現代の名工）

当社の製造部組立課長である灘地康生が2017年度の「卓越した技能者（現代の名工）」として、選出されました。

この制度は、厚生労働大臣が各分野において卓越した技能を持つ第一人者を選出し、表彰するものです。

受賞した灘地は、長年培ってきた技術・知識を生かし完成度の高い機械製造に日々力を注いでいるほか、新製品の開発にも携わってきました。特に、機械加工ではできない微細な凹凸を手の感覚をもとに作り上げ、機械を高精度化する作業において卓越した技能を有しています。また、技能の伝承にも熱心に取り組み、優秀な技能士を多数輩出するなど、当社を支える後進の育成に貢献しています。



開発センター増築

IT関連製造装置事業の組立工場である開発センターを一部増築し、3月に稼働を開始しました。

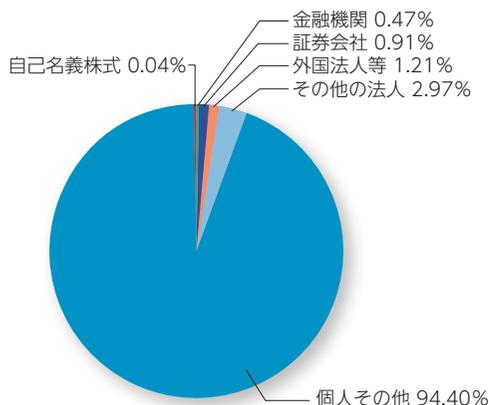
生産スペースの拡大と組立動線の見直しにより、増産および生産効率の向上がはかれることで、売上増加が見込めます。

今後さらに多くの需要に対応し、IT関連製造装置事業を当社の柱の1つとして、より一層成長させていきます。

株式の状況

発行可能株式総数	30,000,000 株
発行済株式総数	11,020,000 株
1単元の株式数	100 株
株主数	2,323 名

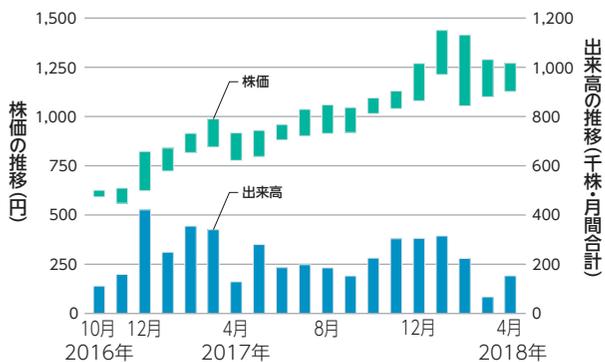
所有者別分布状況



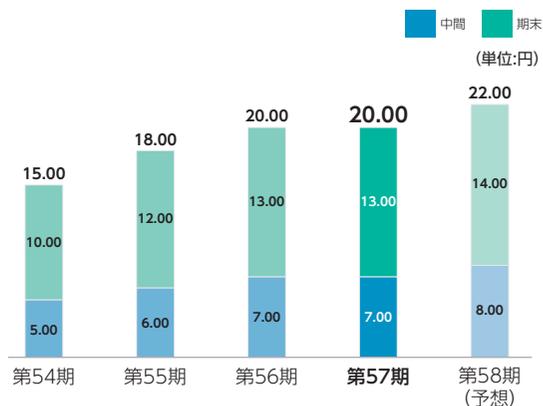
大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
高松機械工業取引先持株会	827	7.51
株式会社タカマツ	810	7.35
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	516	4.69
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	459	4.17
北国総合リース株式会社	433	3.93
株式会社北國銀行	408	3.70
日本生命保険相互会社	384	3.48
明治安田生命保険相互会社	360	3.27
株式会社朝日電機製作所	355	3.22
BBH FOR FIDELITY LOW -PRICED STOCK FUND	344	3.13

株価インフォメーション



1株当たり配当額



会社概要

商号	高松機械工業株式会社
英文商号	TAKAMATSU MACHINERY CO., LTD.
設立	1961年7月
資本金	18億3,539万円
本社	石川県白山市旭丘1丁目8番地
従業員数	523名
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・CNC旋盤等の製造、販売及びサービス・メンテナンス ・部品、コレットチャック等の製造、販売 ・IT関連製造装置の製造 ・自動車部品の加工
ホームページアドレス	http://www.takamaz.co.jp

役員 (2018年4月1日現在)

代表取締役会長	高松 喜与志
代表取締役社長	高松 宗一郎
専務取締役	溝口 清
常務取締役	徳野 稜
常務取締役	磯部 稔
取締役	四十万 尚
取締役	前田 充夫
取締役	中西 与平
取締役	村田 俊哉
取締役(社外)	中西 祐一
取締役(社外)	石原 多賀子
常勤監査役	池上 佳信
監査役(社外)	鍛治 敏弘
監査役(社外)	杖村 修司

アンケートご協力のお願い〈単元株主の皆様へ〉

当社は、株主の皆様のお声を頂戴するため、アンケートを実施しています。同封したハガキに質問へのご回答をご記入のうえ、切手を貼らずにそのままご投函ください。頂戴したご意見は今後の株主通信やIR活動へ活かしていきます。

皆様からの貴重なご意見をお待ちしております。お手数をおかけしますが、ご協力いただきますようお願い申し上げます。



ハガキによるご回答

同封のハガキのアンケート回答欄にご記入のうえ、ご返送ください。



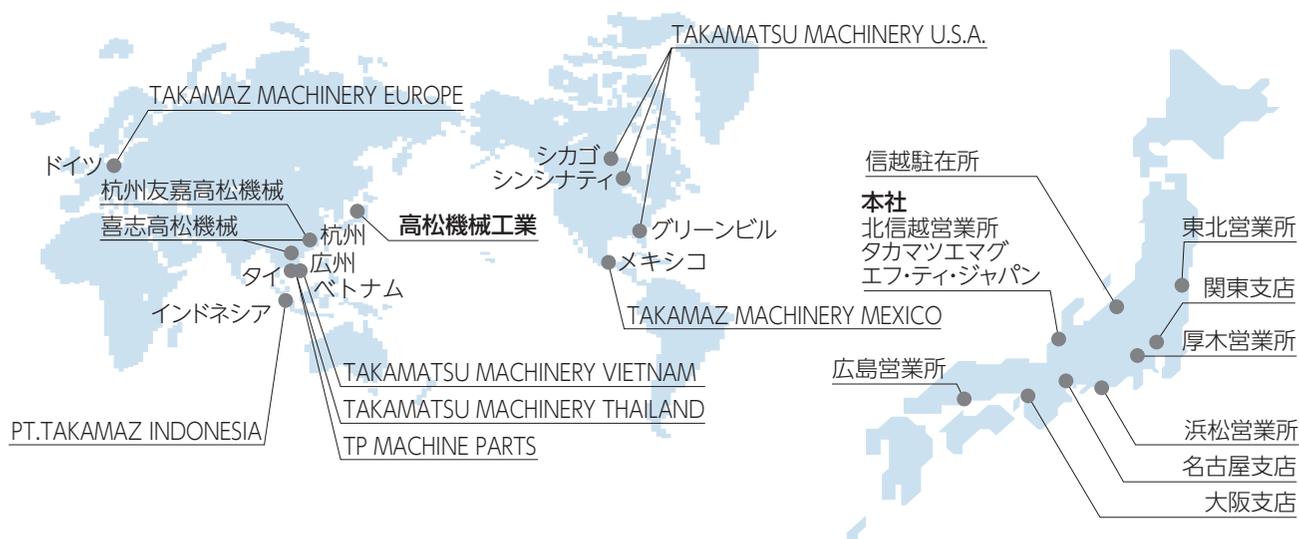
締め切り

2018年9月30日(日)
当日消印有効

IRカレンダー



ネットワークとサービス体制 (2018年4月1日現在)



生産拠点



本社工場(工作機械事業)



本社工場 航空写真



第2工場(コレットチャック生産)



第3工場(自動車部品加工)



開発センター(IT関連製造装置)

ホームページのご案内

当社はホームページにて、さまざまな情報を配信しております。当社のご理解や最新情報のご確認に、ぜひご覧ください。今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



IR情報

経営理念、中期経営計画、コーポレートガバナンス、業績データ、株式情報、IRライブラリーなどをご確認できます。

TAKAMAZ

検索



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月中
株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
(4) その他必要ある時 あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人 および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031
(インターネットホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告の方法 当社ホームページに掲載
<http://www.takamaz.co.jp>
上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部
お問い合わせ先 管理本部 企画経理部
TEL 076-274-1410(直通)
FAX 076-274-1418

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、左記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先をお願いいたします。



ホームページ <http://www.takamaz.co.jp>



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。